ゆがわ 議会だより

平成26年
第91号
11月27日発行

主な内容

◆ ９月定例会提出議案審議 …… Ｐ２～３
◆ 一般質問（７議員が村政をただす） …… Ｐ４～10
◆ 議会活動報告等 …… Ｐ11～13
◆ 議会の主な動き・編集後記 …… Ｐ14

村の宝



木造馬頭観音菩薩坐像(1躰)

所有者　長福寺（田中）

福島県ではあまり作例が多くない尊像。三面三目六臂で、本来は怒髪上に馬頭を戴いていたものであるが、現状ではそれが失われている。馬頭観音は人々の恐怖を破り、無明の悪行を馬が草を食い尽くす様にすべて消滅させてくれる尊像である。また、農村でもくもくと働いた馬への感謝と弊馬の霊を弔ううえで祭られた。像内背面に「貞享三年」（1686年）の墨書銘があり、江戸時代の作である。



木造聖観音立像(1躰)

所有者　常照寺（笠ノ目）

檜材の寄木造りで念入りに内刳がなされ、小像ながら彫り口が細やかである。宝髻の髪筋は刻まれていないが、お顔は面長、豊満にして、玉眼が嵌入されその尊容もみごとに調われているが、やや相貌に人間味らしささえうかがわれる。衣は通肩に纏い、その煩瑣な動きあるしわのつくりは、いくらか拡張ぎみに巧みにこなされている。鎌倉以降の宋朝風が各地に後世まで影響したが、この像もその名残が良くうかがわれる室町時代の作と推定される。



木造薬師如来坐像

所有者　常照寺（笠ノ目）

全長146cm、像高68cm。吉祥坐で壇信徒に吉祥を授ける。黒漆箔の法衣に金箔の肌、その胸の張りは重圧感を与える。欅の一本彫の内刳を施した堂々とした容態で膝の部分は寄木である。白豪輝き、三道は美しく、螺髪は小さめであるが地髪と肉髻の調和は清潔感を与える。肌の黄金色は江戸初期を下らない光である。薬師本来の哀愍悲しみ哀れむ心の具象化のようで優美である。

記事の使用については、湯川村教育委員会の許可を得ております。

第４９５回の９月定例会は９月１１日から１９日までの９日間の会期で開催されました。
村長から提出された条例や補正予算等及び議員提出の条例等の議案を審議し、すべての議案について原案のとおり可決されました。
また、今回は前年度会計の決算の審議もされ、すべての会計の決算が承認されました。
９月１６、１７日の２日間に行われた一般質問には７人が登壇し、農業問題や子育て支援での村の活性化策や若者定住策等について、村の考えを問いました。

９月定例会
９月11日～19日

第495回　9月定例会における議員の賛否の公表

（湯川村議会基本条例第４条第６項に基づき公表いたします）

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
議案番号	件名	賛否	高倉好博	山口啓子	斎藤賢一	小林昭	菅沼弘志	三沢豊隆	高橋重吉	小野淳一	小野澄雄	小林孝一
５６	平成２５年度湯川村一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
５７	平成２５年度湯川村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
５８	平成２５年度湯川村特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
５９	平成２５年度湯川村農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６０	平成２５年度湯川村介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６１	平成２５年度湯川村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６２	平成２５年度墓地事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６３	湯川村税条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	×	×	○	○	○	○	議長
６４	湯川村ひとり親家庭医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６５	湯川村重度心身障がい者医療費の給付に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６６	湯川村営住宅管理条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６７	平成２６年度湯川村一般会計補正予算（第５号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６８	平成２６年度湯川村国民健康保険特別会計補正予算（第２号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
６９	平成２６年度湯川村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７０	平成２６年度湯川村農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７１	平成２６年度湯川村介護保険特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７２	平成２６年度湯川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７３	平成２６年度墓地事業特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７４	地域振興施設附帯工事請負変更契約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議員提出議案第５号	手話言語法制定を求める意見書の提出について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議員提出議案第６号	「被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金」による就学支援事業の継続を求める意見書について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

第496回　10月臨時会における議員の賛否の公表

１０月２０日に第４９６回臨時会が開催されました。この臨時会では、３議案が審議され、いずれも原案のとおり可決されました。
主な内容は、財産（幼稚園送迎用バス）の取得について、若者定住集合住宅補助金などが盛り込まれた平成２６年度湯川村一般会計補正予算（第６号）、平成２６年度国民健康保険特別会計補正予算（第３号）についてであります。

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
議案番号	件名	賛否	高倉好博	山口啓子	斎藤賢一	小林昭	菅沼弘志	三沢豊隆	高橋重吉	小野淳一	小野澄雄	小林孝一
７５	財産（幼稚園送迎用バス）の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
７６	平成２６年度湯川村一般会計補正予算（第６号）	可決	○	○	×	×	×	○	○	○	○	議長
７７	平成２６年度湯川村国民健康保険特別会計補正予算（第３号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

＊「○」は賛成、「×」は反対、「欠」は欠席、議長は裁決に加わらないのため議長裁決以外は「議長」と表記。

平成25年度決算における特徴

歳入決算額、3,071,879千円、歳出決算額、2,688,619千円と、昨年と引き続き大型決算規模となる。
但し、事故繰越額5,406,490千円、繰越明許額3,098,990千円となり、予算現額に対して執行率74.9％と、今迄にない結果となった。

平成25年度一般会計決算認定に対する審議

問 税の滞納抑制の為にも、納期前の報償費のアップを検討すべきでないか。

答 検討させて頂きたい。

問 社会福祉協議会へのご遺志は、何に使われているのか。

答 一昨年までは、運営経費に計上されていました。村としても、使い道等については、明確にするよう指導している。

問 補助金で運営されている社会福祉協議会の人件費は、どの様に取り決められておられるのか。

答 社会福祉協議会内部の規定により決めている。

問 放射能抑制剤として、昨年までは、ケイ酸カリでの散布であった。今年度は、塩化カリに変更された。カリ過剰の心配もあり、変更になった理由は何か。

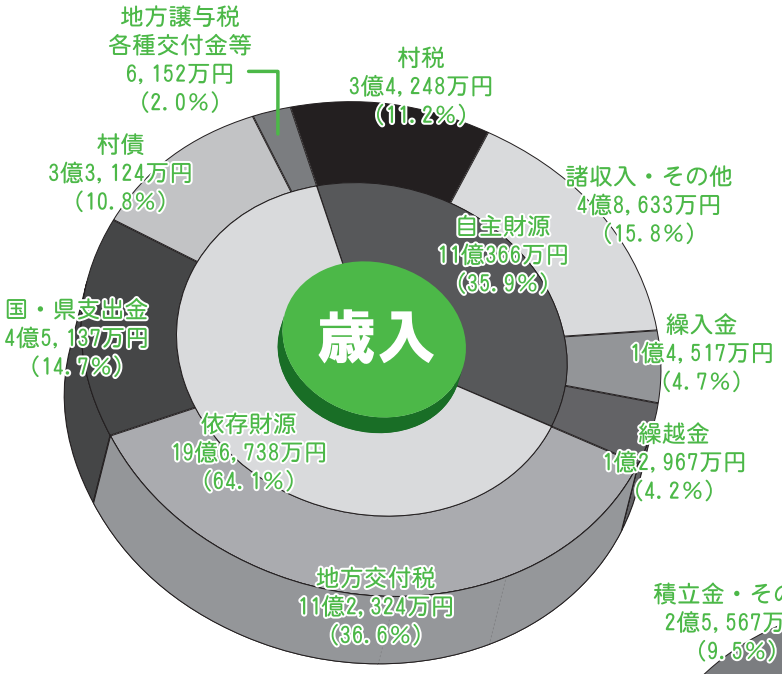
答 当村にとっては、カリ過剰の問題もあり、ケイ酸カリでの散布を強く要望してきた。しかし、全県下統一されたものとして塩化カリに決定された。

問 毎年「会津湯川の里」に補助金が支出されています。どの様に総括されているのか。湯川のイベント実施における便利屋であってはならない。経営として成り立たなければならないのではないか。

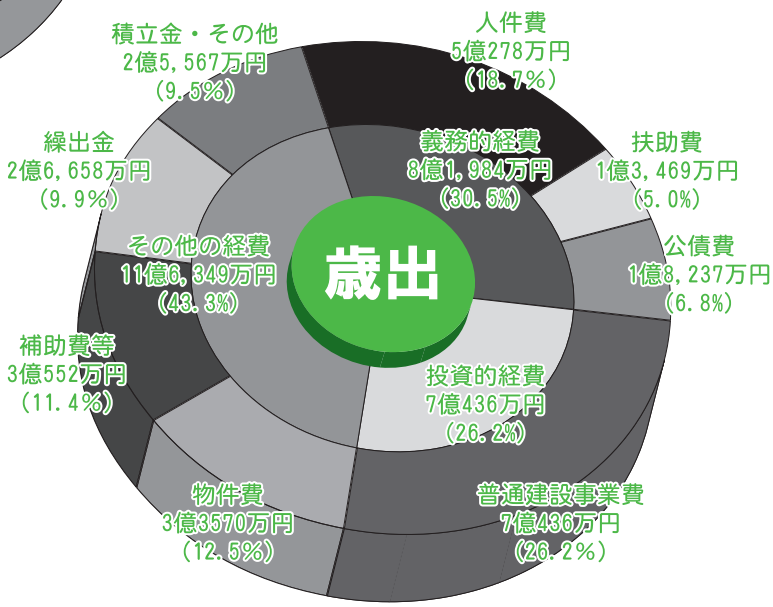
答 湯川村のＰＲに努めて頂いている。自立していけるよう村として指導していきたい。

問 ふるさとおこし協議会のイベント経費とは何か。ＰＲ事業だけであれば、組織のすみ分けをすべきでないか。

答 昭和62年に発足して、今日に至っている。今後、「会津湯川の里」とのすみ分けを実施していきたい。



普通会計
《歳入総額》
30億7,105万円
(前年度比0.3％減)



普通会計
《歳出総額》
26億8,771万円
(前年度比8.9％減)

村政を問う

一般質問

９月定例会



高倉　好博
議　員

問 災害に対する施策を問う

❶役場機能を喪失した場合の対応は？

答 ❶災害本部施設を確保し、国・県・他自治体・民間等の支援により災害支援インフラを確保に努める

湯川村では、津波や土砂災害等による役場機能の喪失はあり得ないので、主に大規模地震により庁舎が崩壊し役場機能喪失した場合の対応として、災害対策本部となる施設を確保し、移動中継基地は配置し通信インフラを確保する。次に、住民の安否確認や被害状況を確認するための住民情報、バックアップされている行政情報システムの復旧を行う。また、国・県・自治体間及び民間支援により、災害支援インフラの確保に努める。

❷災害弱者への対応は？

答 ❷地域防災計画において実効性のある避難支援特別計画を作成する

湯川村地域防災計画において、庁内及び各種福祉関係団体と連携・協力により、災害弱者の避難支援体制を整備する。

今後は、避難時の支援等をより実効性のあるものとするため、避難　支援の際の留意点、避難経路等詳細な情報を記載した特別計画の作成を進めていく。

❸防災地図等の作成計画はあるか？

答 ❸地域防災計画に記載あり

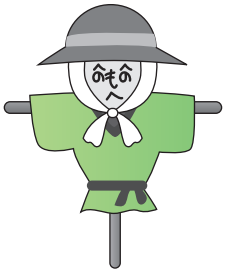
湯川村地域防災計画に、村指定の避難所である各学校、体育館など公共施設等への避難経路等が記載されている。また、洪水ハザードマップの掲載している。

問 今後の村の農業政策を問う

❶今後の村の農業政策は？

答 ❶魅力ある農業・大規模経営体の育成支援を行っていく

農業従事者の減少と高齢化が進む中、魅力ある農業者の育成支援を図るとともに、大規模農業経営体の育成支援を行っている。また、農家支援のための補助事業を多面的に展望しながら、足腰の強い農業経営を手助けしていく。また、各種イベントや道の駅での会津湯川米、農畜産物及び６次化産品の販売促進を積極定期に行っていく。



❷村内遊休農地の活用法は？

答 ❷状況を把握し、きめ細かな対応により担い手へ有効活用を進める

遊休農地の状況を的確に把握したうえで、それぞれの状況に応じ、営農再開・保全管理といったきめ細かな対応を図り、農業委員会やＪＡと連携しながら農地中間管理機構を最大限に活用し、担い手への農地集積等を進め、遊休農地の発生防止に努めていきたい。



雑草地帯となってしまった遊休農地

村政を問う

一般質問

９月定例会



菅沼　弘志
議員

問 村の治水対策を問う

台風11号の接近により、村内の一部で床下浸水・農地の冠水が発生し、住民の生活に被害と不安をもたらした。これを機に総合的な治水対策の見直しが必要と思うが、見解を伺う。

答 土地改良区と連携し被害を最小限にとどめる

増水時に河川と排水路の水位を見極め、適切な樋門調節及び水量調節行い被害を最小限にとどめる方策について、今後も関係土地改良区との連携を図り対応していく。



氾濫の原因となった水路

問 ふるさと納税を問う

村外の方が、村に３万円以上の寄付をされた場合に、コシヒカリ60kgを送る「ふるさと納税」制度は全国に反響を呼んでいる。その現状と今後の課題について伺う。

答 ４千万円超す寄付総額で米生産農家の支援を行う

（９月１日現在）

９月末まで申し込み受け付けを行い、寄付で確保した財源により、農家へ米価低迷の支援を行いたい。また、湯川産米１俵を贈呈することにより、湯川産米のＰＲ、風評被害の払拭に繋げたい。

今後国において、ふるさと納税制度の控除額の拡充、手続きの簡素化を図る動きがあり、動向を注視し今後も効果的な活用策を検討していく。

問 児童公園設置条例を廃止した経緯と今後の方策は？

６月定例議会において、「児童公園設置条例を廃止する条例」が可決されたが、廃止に至った経緯と今後の方策について伺う。

答 公園整備の不平等解消が目的

児童公園設置条例における公園は笈川地区の５集落の公園で、その公園だけは、整備費や維持補修費等を全額村負担で対応してきた。５集落以外の公園の整備費及び維持補修費は、児童遊び場整備費補助金交付要綱で対応しており、10万円までは全額、10万円を超える部分は３分の２の補助額で集落が整備して補助金を出している。前者の５集落とは格差が生じているため、児童遊び場整備費補助金交付要綱で１本化し不平等を解消するべく、６月議会で児童公園設置条例を廃止した。

なお、今後も子育て支援の一環として、各集落の協力をいただきながら安全・安心な遊び場の整備に努めていきたい。



児童公園は今後の管理が心配

村政を問う 一般質問

9月定例会



斎藤　賢一
議員

問 高校生に対する冬期間一部交通費補助を

今年度、交通弱者支援策として、高齢者に対してタクシー利用助成券事業を実施しているが、高校生に対する冬期間一部交通費補助も検討していただけないか伺う。

答 近隣市町村の動向を注視し検討したい

高校生に対する冬期間交通費補助を行っているのは、近隣では喜多方市がある。喜多方市の高校生の冬期間の交通状況と補助内容を精査するとともに、本村の高校生の通学状況を把握し、近隣町村の動向を注視しながら検討していきたい。

問 米にこだわる本村ならではの条例制定を

京都市では「日本酒乾杯条例」を制定し地場産業の振興を図り、「南会津町乾杯条例」を制定しました。「米と文化の里」をキャッチフレーズとする本村で、産業振興策としてこのような動きを検討できないか。例えば「朝ごはん条例」などはどうか。

答 朝ごはん条例の制定を今後検討する

湯川村産コシヒカリを原料として純米酒「瑠璃光」があり村内外から好評をいただいている。乾杯条例の制定は考えていないが、今後も宴席では使用しPRしていく。「朝ごはん条例」については、いいアイディアだと思うので、今後十分検討していく。



黄金色に実った稲

問 冬期間でも土の上でスポーツが出来る屋内施設の新設を

村民のスポーツ人口が増加傾向にあるなか、雨の日や冬期間でも土の上でスポーツが出来る屋根つき施設の新設をしてはどうか。



村営体育館内部

答 検討課題の一つとして詳細研究していく

現在、各種目・団体共に雨天時や冬期間は体育館を工夫して利用しているし、教育委員会でもお室内用の備品を整備するなど雨の日や冬期間のスポーツ活動を支援している。今後、先進市町村の設置や活用の状況、管理運営体制、経費負担等踏まえ、検討課題の一つとして詳細を研究していきたい。



村営野球場

その他の質問

問 来年4月からの福島デスティネーションキャンペーンでの本村の関わり方、PR方法は？

答 道の駅あいづ湯川・会津坂下や会津湯川の里、たから館等観光施設の紹介、湯川米のPR活動と販路拡大、消費拡大を展開していく。

問 日本の伝統的食文化「和食」がユネスコ無形文化財に登録されたが、本村での今後の展開は？

答 米と文化の里湯川村としては、このことを重要と受け止め湯川米に地元産野菜や加工品などと付加価値化を図りをさらにPRしていきたい。

村政を問う

一般質問

9月定例会



小林 昭 議員

問 今年産米の生産者米価下落対策は

喜ぶべきはずの秋の収穫時期を迎えたが、今年度産の米の生産者価格は下落が予想され、農家は不安を募らせている。どのような対策を考えているのか。

答 ふるさと納税を財源として農家支援を講じる 国の「ならし対策」の動向注視し農家支援・周知に努める

今年度産米の概算金は大変厳しい状況である。

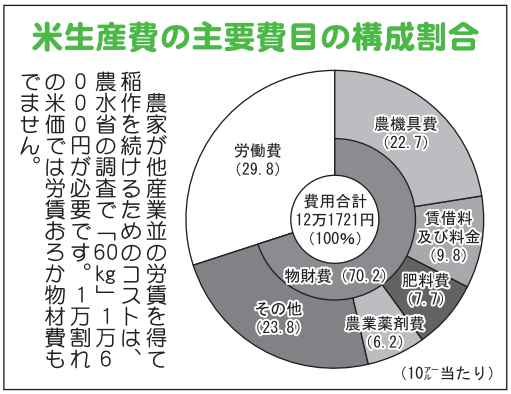
村としては、米価下落に対する補てん金の交付は現段階では考えていないが、農水省では収入減少影響緩和対策、いわゆるならし対策として特別措置を講ずることが報道されており、国の動きを注視しながら、関係団体と協力し、申請事務の支援や制度の周知に努めていく。

問 全国学力テストを問う

毎年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われる全国学力テストについて、学校ごとの序列化や過度な競争に繋がらないか、また、子どもたちにどのような影響があるか伺う。

答 調査結果の分析、検証から課題を踏まえ指導法の改善に努める

全国学力テストでは学校名と正答率等の数値を公表することに影響がある。村教育委員会は、各学校とも数値の公表はしないが、県や全国との比較を保護者等に報告している。結果の分析から課題を見つけ、具体的な指導内容や指導方法の改善に向けた取組を行うこととしている。序列化や過度の競争に繋がらないよう、調査結果の取り扱いや事後対応について、細心の注意をはらって取り組んでいきたい。



問 プレミアム商品券販売方法を問う

商工会で販売したプレミアム商品券が発売後1日半程で完売したと聞いたが、買えなかった村民が大勢いたと聞いた。広く村民が購入できる方法を考えるべきと思うがどうか。

答 今後実施主体の商工会と協議していく

実施主体が村商工会であるので、今後、村に対しプレミアム商品券の助成の要望があった場合には、村の財源等の問題も含めながら協議していきたい。

その他の質問

問 頑張る若者応援新規就農者支援事業の現状と援助体制は？

答 これまで5名申請があり、1名が途中離農、2名が補助期間終了で現在2名が助成を受けながら日々頑張っている。現状を聴きとりし、その都度助言も行うなど支援している。

問 田のカメムシ対策を問う

答 カメムシの生態特性を考慮し、雑草対策や農薬散布の徹底を周知していきたい。



村政を問う

一般質問

９月定例会



山口　啓子
議員

問 子育て支援を問う

ゆがわ幼稚園西側村道と駐車場の間が舗装されていない。車が通る時に石ころが飛ぶし、へこんだ処でつまずいた幼児もいる。大きな怪我にならないうちに舗装にすべきと思うがどうか。

答 今年度工事発注・完了する

ご指摘の箇所については、今年度、村道の歩道として８月に設計完了し、舗装を工事施工する予定であり、年内に完成予定で作業を進めている。



笈川集落南側旧県道の街路灯

問 村道の街路灯について問う

笈川集落内には、街路灯が設置されているが、集落から南側にはない。夜になると真っ暗で、高齢者には危険である。街路灯の設置について伺う。

答 集落からの要望により設置可能

集落内の街路灯については、集落内で設置を協議し結果、新設を希望する場合には、費用の２分の１を補助している。設置後の電気量及び修理費については、全額村負担である。集落で見積りを徴取し申請されたい。

問 道の駅の行事日程は？

10月2日にオープン予定の「道の駅あいづ湯川・会津坂下」の今後の行事日程を伺う。

答 週末ごとに様々な行事予定あり

10月５日は「あいづふるさと映画祭」が交流促進施設で、12日は「新米祭・道の駅フェスタ」、11日から26日の間「福島現代美術ビエンナーレ」が開催される予定であり、その他、阿賀川非出資漁業協同組合による「マス釣り大会」、会津まほろば街道推進協議会による奈良薬師寺の僧侶を招き「高層徳一の人間道を探るセミナー」など、週末ごとに様々な催しが予定されており、道の駅がにぎわいになるものと期待している。



10月２日の道の駅オープン式典の様子

その他の質問

問 プレミアム商品券販売方法を問う

答 今後実施主体の商工会と協議していく

村政を問う

一般質問

９月定例会



小野　澄雄
議員

ふるさと納税で農業振興策を！

問　本村農業の現状と課題は？

先のグラフのとおり、農業所得の減少が村民に大きく影響している。
今年度の低米価は、これまでと違った深刻さが感じられ、本村の基幹産業の生き残り政策の重要性が問われている。そこで、今取り組んでいる水稲栽培の基準作り、アンテナショップによる情報発信、道の駅の農産物供給体制等は、どこまで進んでいるのか。

答　担い手や大規模経営体の育成を図る

農業はいま、生産調整、原発事故による風評被害、米の全量検査の手間、米価下落、ＴＰＰ問題など先の見えない不安がある。
本村では、人・農地プランの作成により、担い手や大規模経営体へ農地を集積し、地域農業を支えていきたい。また、農家支援補助事業を多角的に展開し、足腰の強い農業経営の手助けをしていきたい。

問　「ふるさと納税」を資金とし、「無人ヘリ」の導入を

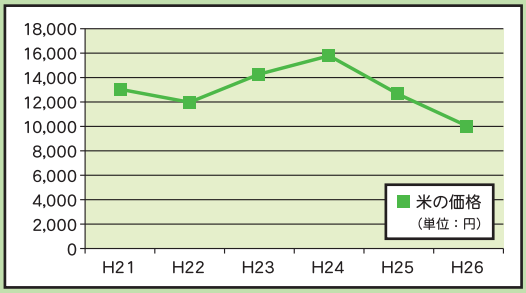
近年の地球温暖化が、病害虫等の発生を助長し、米の品質低下を招き、低米価に更に追い打ちをかけている。更に、高齢化が進み、病害虫防除作業が困難になってきている。農業支援の一環として「ふるさと納税」で得た資金を活用して、カメムシ防除に有効な「無人ヘリコプター」の導入を検討できないか。

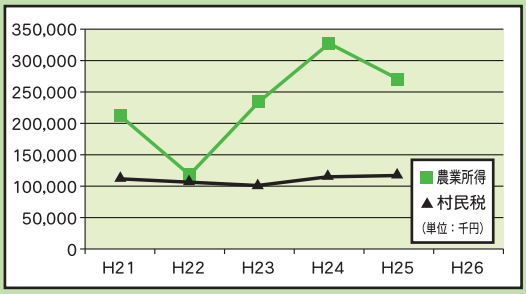
答　ふるさと納税資金は米価下落の補助に、無人ヘリはＪＡと協議検討

カメムシ防除対策として、カメムシの生態特性を考慮し、水田内とその周辺の雑草管理が重要である。畦畔の除草作業を徹底するよう農家に周知している。
除草労力については、苗箱処理剤と本田防除の組合せにより労力の軽減が図られる。色彩選別機を補助的に使用し、出てしまった斑点米をはじくことで落等率を下げることが出来ることから、このような対処法で対応していただきたい。
ふるさと納税資金は、今年の下落した米価の一助としたいと考えている。ラジコンヘリでのカメムシ防除は大変有効なものであるが、村というよりＪＡで対応をどのように考えているのかが大きい。村で購入し管理運営をするのは至難のわざであるため、ＪＡと十分協議し、今後どうしたらよいか検討していきたい。

米の価格と農業所得・村民税（個人）の推移

項　目	H21	H22	H23	H24	H25	H26
農業所得（単位：千円）	206,974	116,532	237,965	330,461	268,515	
村民税	114,649	105,987	99,893	112,431	119,821	
米の価格（単位：円）	13,036	11,916	14,258	15,741	12,600（概算金）	10,000（概算金）





その他の質問

問　ふるさと納税の現状と今後の対応は？

答　４千万円超す寄付総額で米生産農家の支援を行う（９月１日現在）



ふるさと納税の納税者へ
湯川米発送第１便出発式
（10月14日）

村政を問う

一般質問

９月定例会



三澤　豊隆
議員

問 少子高齢化社会での村・集落・学校の連携について

❶地域集落への行政のてこ入れは？

少子高齢化が進む中で、集落内で役員をやるものがいなくなってきている現状で、行政が集落内で直接かかわるサービスがないか。

答 ❶集落での対応を極力減らす

農家もサラリーマンを主とする兼業化が進み、日中村内におられない方が、集落役員になられることが多い現状で、各集落での役員確保に努力をされている。

役場で出来るものは、なるべく役場内で対応していきたい。集落にお願いしなければならないことは、極力少なくしていきたい。



湯川村の子育て環境の将来は

❷学校を支える地域のあり様は？

答 ❷学校教育と社会教育の連携融合を図る

地域に根差した教育活動（郷土教育）を推進している。また、通学見守り隊活動、影絵や読み聞かせ、農作業や園芸、書き初め、和太鼓など活動を支えていただいている。今後も学校教育と社会教育の連携、融合を積極的に推進していく。

❸少子高齢化を踏まえたこれからの行政・教育は？

答 ❸子育て環境を整備し支援していく

子どもを安心して産み育てることができる支援として、相談・情報提供・健全育成事業・母子保健事業等を保健・福祉・教区各分野が一丸となって展開していく。

問 基幹産業農業の活性化策と商工業振興について

❶減反政策を踏まえた現状と今後は？

答 ❶厳しい現状、地域間調整と備蓄米で対応する

❷生産組織育成の現状と今後は？

答 ❷受け手経営体の育成・支援が課題

農地の受け手となる農業法人の設立支援補助金を設けた。多くの方に農業法人を立ち上げていただきたい。また、農地中間管理機構制度の活用により、出し手・受け手それぞれがメリットを措置が受けられるよう周知徹底していきたい。



湯川村の今後の農業の行方は…

❸商工業の振興策は？

答 ❸

本村の商業は商業拠点地域がないため、消費者の購買行動の多様化に対応し、商店自らの機能を発揮し新たな発想で消費者ニーズに応えられる店舗づくりが重要と考える。

村の工業生産は、工業団地の整備と進出企業の操業に伴い伸びている。

今後は、会津縦貫北道路など高速交通体系の整備に伴う立地条件の優位性見極め、国土利用計画等に沿って進出企業の誘導を図っていきたい。

「議員力」を高めるために！　＜行政視察研修会＞

農業と自然の共生によりブランド米の確立！！（新潟県佐渡市）

新潟県佐渡市には、農業と自然が共和し、佐渡米を全国的にブランド化した実績がある。我々は、年々米の価格が下落する中で「どのように湯川米をブランド化するか」を調査するために佐渡市を訪問した。

佐渡市では2008年からトキの試験放鳥が開始され、トキの餌場を確保するためには2000haの生き物の豊かな水田とビオトープが必要と目標を立てた。その後、一部の農家から「生きものを育む農法」を農業技術へ進化させ、現在では622戸 1344haの農地で作付。2013年には日本初の「世界農業遺産（GIAHS）」に認定され、佐渡米は一躍注目を浴び、ブランド化された。



名産のコシヒカリ


佐渡市の田園風景

本村では「米と文化の里」をキャッチフレーズにしているが湯川村の米をブランド化するためには何が必要かを学べたと思う。ブランド化には品質の統一化は勿論ですが、消費者に「おいしい」と言ってもらえることが大事である。

今回の研修を活かし、湯川米のさらなるPRをしていかなければいけないと感じた。

経済常任委員長　斎藤 賢一

長野県川上村行政視察記

レタス生売量日本一（年間出荷量約６万トン、出荷総額約１６０億円）に着いたのは１０月３１日の午後２時頃です。

現在７期目の藤原忠彦村長がめざす「日本一健康長寿で裕福な村」の現実を見て私達は圧倒されっ放しでした。

渡された資料によれば、

・農業就業人口割合　３８．２％
・農業後継者平均年齢　３０才
・農家率　５０．２％
・耕作放棄地ゼロ
・健康老人率　８５．１％
・高齢者就業率　５０．３％
・村内就業率　９３．７％
・完全失業率　１．５％
・国保税額　１０４，６７８円（Ｈ２３、一人当り）
・平均年収　２，５００万円
・県下一低い医療費（１７０，７３１円、Ｈ２４）
・看取り率　６４．３％（全国平均約１２％）
・不妊治療窓口３割負担（全国唯一）


川上村の保健・福祉政策を視察

以上のとおり全国一、県内一という数字が多いものとなっており、農業と福祉では他市町村の付随を許さない内容といえます。

一人の患者、利用者を村全体で支える『ヘルシーパーク構想』、「村独自の保健・福祉・医療連携システム実証実験」などの国を先取りする村の施策。

小林仁史保健福祉課長が川上村を紹介する目には、キラキラとした未来を展望する輝きや村で生まれ育った誇りを感じさせるものがありました。

総務文教常任委員長　菅沼 弘志

平成26年度福島県町村議会議員研修会

湯川村議会改革の方向性に自信

１０月２６日（火）午後１時より、郡山市のビックパレットを会場に「福島県町村議会議員研修会」が開催され、湯川村議員全員で参加した。

今回の研修は「地方政治の課題 転換期を迎える議会」と題して明治大学名誉教授の中邨 章氏が講和した。議会改革の展開として６事項を説明した。

①議会基本条例の制定

②議会報告会の開催

③議員間討議の実施

④反問権の開始

⑤議事録の公開

⑥通年議会の開催についてである。



県町村議会議員研修会

湯川村議会は議会基本条例・議会報告会の開催議員間討議の実施議事録の公開等は実施している。地方議会が変化するには制度改革も必要であるがまずは議員の質の向上が先決であり、住民にわかりやすい地方政治の説明が重要であると再認識した。

これからは地方分権が進む中で、我々地方議員に課せられた責任は重く、より一層の知識・情報力・決断力・判断力が求められる。これからも多いに自己研さんに励んで行きたい。

経済常任委員長　斎藤 賢一

全国広報研修会について

１０月２１～２２日に行われた町村議会広報研修会について報告します。全国１４０町村議会の参加のもと開催されました。

福島県からは坂下町を含め８町村の広報担当者の参加していました。

議会広報紙の文章、「伝える広報から伝わる広報へ」と題して広報コンサルタント、広報専門官の小田順子さんんが豊かな経験を話されました。広報とは情報の発信、広聴は情報収集、議会で発行している議会だよりも情報の発信と情報の収集をしっかいとやり村民の方々が一目でわかるように見やすい文書の作り方や読みやすい文の書き方等読者の立場に立った作り方の指導を受け納得のいく講演内容でした。

第二は広報紙面デザインの基礎知識として長澤忠徳氏による話は広報紙を作る上での具体的な書体の基礎知識や紙面の構成等解りやすく講演されました。最後に写真の見方、考え方として写真家の神島美明氏が話されました。一枚の写真から見る人によってそれぞれのとらえ方があります。しっかり撮るという意思が必要な時代なんだと感じました。美とは五感で撮り、撮った写真を想像して見てもらえたら良いと思います。

広報の研修会に参加して目からうろこの感じがしました。皆様方にわかりやすい情報発信ができるようにがんばってまいります。

広報編集委員　小林　　昭


全国町村議会議員広報研修会

福島大学生、本村の「議会だより」を研究成果 発表！

去る９月２４日、昨年に引き続き、福島大学行政政策学類の中川先生を始め、学生１３名が来庁しました。

今回は、本村の議会広報紙である「議会だより」を素材とした、学生達の「議会だより」を、３グループに分けて研究成果を発表しました。

○第１グループは、表紙、見出しや枠組みをつけて、見やすさを強調。

○第２グループは、解りやすさをコンセプトにした、解説コーナーや質問に対する成果を重要視。

○第３グループは、テーマ毎の、争点をまとめた。

それぞれ、若い人の感性が随所に見られ、「伝える広報」から「伝わる広報」にむけて、解りやすさ、答弁に対する追跡、争点のまとめ等、読む側の視点をより考慮した「議会だより」であることを感じさせられました。多様な意見、捉え方は、今後の広報作りに役立てたいと大いに参考になりました。

広報編集委員長　小野 澄雄


福大生から議会だよりの提案を受ける

道の駅オープンについて

１０月２日、待ちに待った道の駅がオープンしました。県内外より約３千人の来場者があり会場はにぎわいました。レストランには長蛇の列が出来、地場者の直売所には風評被害を払拭する安心・安全な野菜や米や六次化産品等が並び、湯川村の魅力を大いにＰＲ出来たと思います。初日なので品物不足という現状はありましたが、今後を期待したいと思います。


道の駅オープン式典

子供連れの御家族には遊具で遊びお昼はレストランでバイキング料理を食べ買い物をして帰って頂ければと思います。村民の皆様には楽しいひとときを満喫し大いに利用願いたいと思います。

経済常任副委員長　山口 啓子

初議会に出席して

第４９５回湯川村議会定例会へ農業委員会長で出席しました。議会出席は、初めてであります。議会はライブ中継されていますので、１２月と３月は拝聴していました。各議員は一般質問と議案審議に別れています。一般質問は、議員が日頃の活動・住民が日常においての考え問題点の質問です。湯川村は小さい地域なので、きめ細かな身の回りのことまで質問が取り上げられています。質問内容が各議員で重複していると感じ、日程の制約があるので、同一質問は調整して多くの質問をしたら良いと思います。

以上が議会に出て感じたことです。

現在農業委員会は、組織改革の名の下に見直す動きが強まっています。見直しについては、農業委員の公選制の廃止、農業委員定数の削減、農地利用最適化推進委員の新設、意見の公表等、法令業務からの削除、県・全国農業会議所の役割の見直し等到底納得できるものではないと思います。

農業委員会は、農地法等の法令業務の適正な執行や耕作放棄地の解消、担い手の育成支援等の業務を担っているからです。

ついては、農業、農村の振興に向けた農業委員会組織が、今後も積極的に展開していきますのでご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

湯川村農業委員会長　鈴木 光雄

湯川村議会の主な動き

８月　３日	会津坂下町流し踊り参加
５日	議会全員協議会
７日	議会広報編集委員会
１５日	湯川村成人式
１９日～２０日	両沼地方町村議会議長会行政調査
２０日	議会広報編集委員会
２７日	県町村議会正・副議長・事務局長研修会
２８日	会津総合開発協議会中央要望活動
９月　２日	議会運営委員会・議会全員協議会
３日	両沼町村議会議長会行政懇談会
４日	議会運営委員会
７日	村民運動会
８日	県市町村対抗軟式野球大会結団式
１０日	高齢者グランドゴルフ大会
１１日～１９日	第４９５回湯川村議会定例会
１４日	湯川村敬老会
２４日	福島大学行政政策学類生との交流会
２５日	両沼地方町村議会議長会臨時総会
２６日	会津総合開発協議会県要望活動
２７日	道の駅「あいづ湯川・会津坂下」内覧会
１０月１日	葛飾区職人会との懇談会
２日	道の駅「あいづ湯川・会津坂下」開所式
４日	ゆがわ幼稚園運動会
８日	県市町村対抗ソフトボール大会結団式
９日	豊穣の芸術祭稲刈祭
１２日	第９回湯川村新米祭＆人川道の駅ふれあいフェスタ
	会津美里町新鶴ワイン祭り
１６日	議会運営委員会
１８日	会津坂下地区交通安全町村民大会
２０日	第４９６回議会臨時会
２１日～２２日	全国町村議会議員広報研修会（東京）
２３日	高齢者スポーツ大会
２４日	国道１２１号線建設促進期成同盟会総会・同中央要望
２６日	秋季消防連合検閲
２８日	県町村議会議員研修会（郡山）
２９日～３１日	湯川村議会行政調査（新潟県佐渡市・長野県川上村）

12月定例議会のお知らせ

12月11日(木)から開催される予定です。

一般質問、一般会計をはじめとする各会計の26年度補正予算案等が審議されます。是非、傍聴においで下さい。

尚、日程の詳細については、後日新聞折込チラシでお知らせします。

議会広報編集委員

委員長	小野　澄雄	副委員長	小林　昭
委員	菅沼　弘志	委員	斎藤　賢一
委員	山口　啓子		

編集後記

短い夏、秋も早走りに過ぎ、今年も早や一ヶ月余を残すのみとなりました。

台風や噴火等、自然災害の天災脅威、米価も「半値」で、農業が大幅に変わる過渡期となるのか。農業の現状を写す共鏡のようである。

米国も自由貿易推進の共和党が上下両院制した。対日圧力がさらに強まるか、TPPの行方は厳しい。

湯川村も、庁舎がいよいよ来春完成する。「道の駅」も、二年目が正念場である。駐車場の車の台数が気にかかるところである。

（小野　澄雄）

発行／河沼郡湯川村議会　編集／広報編集委員会　〒969-3593 福島県河沼郡湯川村大字笈川字長瀞甲875番地5
TEL (0241) 27−8860　FAX (0241) 27−3761